

指定管理者が行う公の施設の管理状況報告（令和6年度分）

< 県の評価等 >

施設所管部名：環境生活部

1 指定管理者の概要等

施設の名称および所在	三重県交通安全研修センター（津市垂水 2566 番地）
指定管理者の名称等	一般財団法人三重県交通安全協会 会長 稲垣 清文 （津市高茶屋 4 丁目 4 8 番 8 号）
指定の期間	令和 3 年 4 月 1 日～令和 8 年 3 月 31 日
指定管理者が行う管理業務の内容	1 三重県交通安全研修センターの運営業務 2 三重県交通安全研修センターの維持管理業務 3 三重県交通安全研修センターの管理上必要な業務 4 その他の業務

2 施設設置者としての県の評価 ※指定管理者が変わった場合、前年度の評価は斜線を記入しています。

評価の項目	指定管理者 の自己評価		県の評価		コメント
	R5	R6	R5	R6	
1 管理業務の 実施状況	B	B			既存の設備を生かし、幼児から高齢者に至る幅広い年齢層の県民に対して、交通事故情勢やニーズを反映したカリキュラムによる質の高い交通安全教育を提供するとともに、SNS等を通じた情報発信を行い、県交通安全教育の中核施設としての役割を果たしている。
2 施設の利用 状況	B	B			利用者数は 4,102 人となり成果目標未達となったものの、令和5年度と比較し 240 人増となった。（目標値：6,000 人） なお、各種研修（高齢者・指導者向け）受講者数については、令和5年度よりいずれも減となったものの、市町と連携したパーク&バスライドによる高齢者研修の実施や、「夜間特別研修」「自転車指導者研修会」等の特別研修の実施により、対象に応じた専門的な研修を展開した。
3 成果目標お よびその実 績	B	B			成果目標 4 項目のうち、受講者数に係る 3 項目について、いずれも目標未達となったものの、企業や未就学児による受講の増加等により、利用者数は令和 5 年度から 240 人増となった。 また、「利用者の満足度」については 97.4%と高い水準で成果目標を達成しており、質の高い研修を実施できている。 （目標値：90.0%）

※「評価の項目」の県の評価：

「+」（プラス） → 指定管理者の自己評価に比べて高く評価する。
「-」（マイナス） → 指定管理者の自己評価に比べて低く評価する。
「 」 （空白） → 指定管理者の自己評価と概ね同じ評価とする。

<p>総括的な評価</p>	<p>(1) 成果目標に対する達成度</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 4つの成果目標のうち、利用者数等3項目で目標未達となったものの、利用者数は前年度と比較し240人増となったほか、「利用者満足度」については97.4%と高い水準で目標を達成しており、質の高い研修を実施することができていると評価できる。 ・ 指定管理者独自の数値目標である「ホームページアクセス回数」、「メールマガジン発信回数」及び「広報誌発行回数」については、全て目標を達成しており、指定管理者の積極的な情報発信について、一定の成果が認められる。 <p>(2) 残されている課題</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 利用者数増に向け、市町や関係機関・団体との連携を強化し、積極的なPRを展開することにより、施設の認知度向上や利用者数増に努める必要がある。 ・ 社会の高齢化に伴い、高齢者が被害者・加害者となる事故の割合が高い傾向が続いている現状をふまえ、高齢者研修の利用拡大に努める必要がある。 <p>(3) 翌年度に取り組むべき成果目標の設定</p> <p>引き続き、県民ニーズや交通事故情勢をふまえたカリキュラムの提供による利用者満足度の維持向上及び積極的な利用案内、広報等による利用者数・各種研修受講者数の増により、成果目標の達成に向け取り組む必要がある。</p> <p>(4) その他 (県民ニーズの把握等)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 研修時に利用者アンケートを実施するとともに、利用団体の代表者等で構成される「事業内容等評価検討委員会」を年1回開催し、県民ニーズの把握に努めた。 <p>(県民サービス向上等)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 電動キックボードやモペット（ペダル付き電動バイク）等、新しいモビリティを取り入れた研修を実施したほか、職員の知識の質的向上を図るため専門研修を受講する等、研修内容の充実に努め、県民サービスの向上を図った。 ・ 夏季の暑さ対策として、ロールスクリーンの設置や、屋外研修時の待機所にオーニング（日よけ）を設置する等、良好な利用環境の整備に努めた。 <p>(施設の適正な維持管理の実施)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 設備や機器について、チェックリストに基づき日常点検を実施し、記録簿を整備するとともに、必要に応じ専門の外部事業者による保守点検を実施し、適切に維持管理を行っている。 <p>以上のことから、三重県交通安全研修センターの管理者として、概ね適切な実績を残していると評価できる。引き続き、成果目標の達成に向け、企業・団体等への案内及び各種媒体を通じた積極的な広報により施設の周知に努める等、利用者数増に向けた取組を推進するとともに、対象に応じた専門的かつ高度な交通安全教育の実施により、県交通安全教育の中核施設としての役割を果たすことを期待したい。</p>
---------------	---

<指定管理者の評価・報告書(令和6年度分)>

指定管理者の名称：一般財団法人三重県交通安全協会

1 管理業務の実施状況および利用状況

(1)管理業務の実施状況

① 交通安全研修センター運営事業の実施に関する業務

ア 交通安全に関する教育の実施に関する業務

・参加・体験・実践型の交通安全研修事業

年齢・業務の形態等の受講者の特性に応じて、研修目的を明確にした個別のカリキュラムを作成し、参加・体験・実践型の団体研修を実施した。(632 団体、4,102 人)

・指導者養成・資質向上事業

地域・職域等で交通安全教育を推進する交通安全教育指導者の養成・資質向上を図るため、指導者に特化した研修カリキュラムを実施したほか、教職員等を対象とした「自転車交通安全教育指導者研修会」、企業・団体の交通安全指導者を対象とした「交通安全夜間特別研修会」、市町の交通安全教育指導員を対象にした「交通安全教育指導員研修会」等の特別研修を実施した。(計 143 回、1,237 人)

また、対象別に活用できる指導者用マニュアルとして、「子ども向け」「一般ドライバー向け」「高齢者向け」の3類型を、年齢や日常の交通手段を考慮し、また、法改正や時勢の課題、三重県内の実態などを反映して作成し、地域・職域等で交通安全教育に携わる指導者へ配布した。

イ 施設の運営に関する業務

・県内の各種団体等に研修参加を働き掛け、センターの周知・新たな需要の掘り起こしによる参加者の拡大に努め、240 人の利用者数増につなげた。

面談による案内：144 件（国県市町 38 団体、企業 52 社、学校 5 校、老人関連 16 団体、その他 33 団体）

会合に参加しての案内：28 件（企業等 3,523 団体）

電話による案内：31 件（国県市町 7 団体、企業 3 社、学校 15 校、老人関連 4 団体、その他 2 団体）

・子ども向け研修では、屋内歩行研修コースを実際の交通環境に近づけるために、見通しの悪い街角、踏切に電車の絵を掲出するなど、臨場感を高める工夫をした。

・オリジナルキャラクター「みまも」をデザインした「反射タックルバンド」等の啓発物品を制作し、研修参加者及び県内の交通安全協会の窓口を通じて配布した。

・部外から教育、高齢者、交通関係団体、一般企業の有識者等を委嘱した「事業内容等評価検討委員会」を画面形式で実施し、事業全般について評価検証を行い、今後の運営改善に当たった。

ウ 交通安全に関する情報提供、資料の収集及び提供に関する業務

・県内の交通安全教育の拠点施設としての活用を促進するため、ホームページやSNSを活用するとともに、メールマガジン配信（年 12 回）、広報誌発行（年 4 回）等を通じ、県内の事故発生状況・注意喚起や交通安全に関する情報の提供に努めた。

・高齢者対策として、高齢者の身体的特性及び歩行時・自転車乗車時・自動車運転時における各注意事項を掲載した「高齢者のための交通安全テキスト」を作成、配布した。

・自転車事故防止対策として、点検要領から事故実態などをまとめた「自転車テキスト」を作成、配布した。

・教育機関・企業等へ専門性の高い各種交通安全DVDの貸出を行い、各所での交通安全教育を支援した。また、貸出用DVDについては、HPにカテゴリ別の作品リストを掲載するなど、選びやすい環境を整備した。

② 施設および設備の維持管理および修繕に関する業務

・各種施設・設備・機器については、「機器点検表」に基づき毎日始業前点検及び打合せを励行するとともに、専門の外部保守点検業者との委託契約のもと点検項目に沿った随時及び定期的な保守点検整備を行い、良好な利用環境の維持に努めた。また、軽易な修繕は職員で対処し、経費の縮減に努めた。

・各種感染症拡大防止のため、施設や機器を定期的に消毒するとともに、手指の消毒剤を各所に配置しこまめに消毒ができる環境とした。

③ 県施策への配慮に関する業務

・人権尊重のための取組

「差別を解消し、人権が尊重される三重をつくる条例」の趣旨を職員に徹底させるとともに、障がい者、高齢者、外国人、性別等にとらわれず、誰もが快適に交通安全研修を受講できる環境づくりに努めた。また、セクシャルハラスメントやパワーハラスメント等さまざまなハラスメントを許さない公正で明るい職場環境づくりに努めた。

・男女共同参画社会実現への取組

研修センターの事業評価、事業内容検討の場に女性の登用を図るとともに、女性の交通安全教育指導員の配置など、男女共同参画の視点をふまえ、男女がそれぞれの個性と能力を発揮できる事業の実施に努めた。

・ユニバーサルデザイン（ＵＤ）のまちづくりに向けた取組

物品等の購入に際し、可能な限りＵＤ商品を選定した。また、小・中学生の団体研修実施時にエレベーターの点字付き操作ボタン、身体障がい者用トイレ、聴覚障がい者に対する配慮を示す「耳マーク」等について説明し、障がいの有無、性別等にかかわらず、全ての人が社会のあらゆる活動に参加でき、安全・安心な生活を営むことができるまちづくりについて理解を深めることに努めた。

・持続可能な循環社会の創造に向けた環境保全活動への取組

ごみの分別、資源のリサイクルを実施するとともに、再生紙の利用、コピーの両面印刷等により省資源に努めた。また、研修の実施に際し、アイドリングの自粛やエコドライブの促進を図るとともに、休憩時間帯の節電等に取り組み、職員・利用者の環境に対する意識の高揚とその実践に努めた。

④ 情報公開・個人情報保護に関する業務

・基本協定書の「個人情報の取扱いに関する特記事項」に基づき、個人情報の安全管理に関する責任体制を整備し、適切に対応した。

・個人情報の取得は必要最小限とし、取得した個人情報は厳重管理の上、不要となった情報は速やかにシュレッダー処理を行った。

・令和６年度中の情報開示請求はなかった。

(2) 施設の利用状況

	目標	令和６年度 実績	令和５年度 実績
利用者数（人）	6,000	4,102	3,862
指導者養成・資質向上研修受講者数（人）	2,000	1,237	1,334
高齢者研修受講者数（人）	600	321	427

2 利用料金の収入の実績

該当なし

3 管理業務に関する経費の収支状況

（単位：円）

収入の部			支出の部		
	R 5	R 6		R 5	R 6
指定管理料	39,355,000	41,855,000	事業費	15,313,679	17,418,621
利用料金収入			管理費	24,041,321	24,436,379
その他の収入	0	0	その他の支出	0	0
合計（a）	39,355,000	41,855,000	合計（b）	39,355,000	41,855,000
収支差額（a）-（b）	0	0			

※指定管理者が変わった場合、前年度の収支状況には斜線を記入しています。

※参考

利用料金減免額

—

4 成果目標とその実績

(1)成果目標			
目標項目	目標値	目標に対する実績	達成率
(研修事業)			
利用者数（人）	6,000	4,102	68.4%
指導者養成・資質向上研修受講者数（人）	2,000	1,237	61.9%
高齢者研修受講者数（人）	600	321	53.5%
利用者の満足度（%）	90.0	97.4	108.2%
(2)指定管理者独自の数値目標			
目標項目	目標値	目標に対する実績	達成率
(研修)			
ホームページアクセス回数（回）	50,000	93,501	187%
メールマガジン発信回数（回）	12	12	100%
広報紙発行回数（回）	4	4	100%
今後の取組方針	<p>令和6年度は、第6期指定管理期間5年の4年度目であり、各種感染防止対策を適切に実施することを含め利用者の安全を確保し、年齢・業務の形態等の受講者の特性に応じた研修を行った。また、研修参加者は、前年度と比較すると240人増（6.2%増）となったものの、指導者、高齢者に関しては減少する結果となり受講者数に係る成果目標はいずれも達成することができなかった。</p> <p>令和7年度は、各種団体等への訪問活動等により研修参加者の更なる増加を図る。</p>		

5 管理業務に関する自己評価

※指定管理者が変わった場合、前年度の評価は斜線を記入しています。

評価の項目	評価		コメント
	R5	R6	
1 管理業務の実施状況	B	B	<ul style="list-style-type: none"> ・業務計画書、運営方針に基づき、管理業務や事業展開を推進した。 ・各市町の交通安全担当課、社会福祉協議会及びシルバー人材センター等の訪問、各種会合等での利用案内を行い、積極的に利用者増を図った。（今年度3,523団体、累計12,201団体） ・道路交通法の改正等に応じ研修を受け職員の知識の質的向上を図るとともに、電動キックボード等新たなモビリティを研修に取り入れるなど、研修内容の質の向上・充実に努めた。
2 施設の利用状況	B	B	<ul style="list-style-type: none"> ・高齢者研修受講者数等は減少した一方、企業・団体による研修の増加等により、受講者数は増加となった。 ・幼児から高齢者まで、幅広い世代に参加・体験・実践型の交通安全教育を実施するとともに、各市町の交通安全担当者や交通教育指導員を対象に、指導者に特化した研修カリキュラムを実施したほか「夜間特別研修」や「自転車指導者研修会」などの特別研修を実施し、地域や職場での指導者を養成した。
3 成果目標およびその実績	B	B	<ul style="list-style-type: none"> ・成果目標4項目中、利用者数及び各種研修受講者数に係る3項目において成果目標未達となったものの、利用者満足度は97.4%と高い水準で成果目標を達成することができた。（目標：90.0%） ・指定管理者独自の成果目標であるホームページアクセス数やメールマガジン配信数、広報紙発行回数など、広報に係る項目は全て達成した。

※評価の項目「１」の評価：

「Ａ」 → 業務計画を順調に実施し、特に優れた実績を上げている。
「Ｂ」 → 業務計画を順調に実施している。
「Ｃ」 → 業務計画を十分には実施できていない。
「Ｄ」 → 業務計画の実施に向けて、大きな改善を要する。

※評価の項目「２」「３」の評価：

「Ａ」 → 当初の目標を達成し、特に優れた実績を上げている。
「Ｂ」 → 当初の目標を達成している。
「Ｃ」 → 当初の目標を十分には達成できていない。
「Ｄ」 → 当初の目標を達成できず、大きな改善を要する。

<p>総括的な評価</p>	<p>(１) 成果目標に対する達成度 利用者数及び各種研修受講者数に係る３項目において成果目標未達となったものの、利用者満足度は 97.4%と高い水準で成果目標を達成できた。 また、指定管理者の独自成果目標であるホームページアクセス回数及びメールマガジン発信回数、広報紙発行回数については、３項目全て目標を達成できた。</p> <p>(２) 残されている課題 ・各種研修受講者数の増に向け、市町や関係機関・団体との連携の強化を図る。 また、県内の企業・団体に対し積極的なＰＲを展開し、施設の認知度向上に努める。 ・社会の高齢化に伴い、高齢者が事故の被害者・加害者となるケースが増加している現状を踏まえ、研修を通じ、高齢者の交通事故防止に貢献するため、高齢者団体研修の利用拡大に努める。</p> <p>(３) 翌年度に取り組むべき成果目標の設定 指定管理者として、引き続き各成果目標の達成に向けて取り組んでいく。</p> <p>(４) その他 (県民ニーズの把握) 研修受講者に対し、アンケートを実施するとともに、参加団体の代表者等で構成される事業内容等評価検討委員会を開催し、県民ニーズの把握に努めた。</p> <p>(県民サービス向上) 電動キックボードやモペット（ペダル付き電動バイク）といった新しいモビリティを取り入れた研修を実施するなど、交通情勢を踏まえた適格な業務運営を図った。</p> <p>(施設の適正な維持管理の実施) ・設備・機器等について、必要に応じ専門の外部事業者による保守点検を実施するとともに、毎日の点検を実施し、良好な利用環境の維持に努めた。 ・「危機管理マニュアル（研修センター作成）」「震災及び火災等の対応マニュアル（運転免許センター作成）」等に基づき防災訓練の実施等危機管理を行い、安全・安心な受講環境の確保に努めた。</p>
---------------	---